



77枚に分割されて描かれた葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」



みんなで協力して描きました

「海の日」に、大きな海の絵が完成しました。七月八日・十六日に市立美術館の夏の企画として行われた「みんなで浪塗り」には、小学五年生から成人まで延べ二十四人の皆さんが参加。七十七の部分に分割した「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を数枚づつ担当し、高さ二・一メートル・幅三・三メートルの大きな絵を作りました。完成した絵の出来栄えを、頭に描きながら筆を動かす皆さんは、とても楽しそう。

出来上がった絵は、九月九日(日)まで、同館企画展示室で開催されている「エンジョイ・アート2007」(入場無料)で展示しています。



完成した絵に、みんなで拍手！

表紙

小江戸川越花火大会の様子 (安比奈新田)

8月24日(金)、安比奈親水公園で小江戸川越花火大会を再開します。詳しくは、2ページをご覧ください。



川越城築城550年

川越城が築城されて550年目のことし、さまざまな記念イベントが行われます



川越ならではの
礼儀作法など

着替え

小江戸のならわし・その五

子どものころの話です。母が外出のため着替えをするとき、後ろを向いて帯をほどきました。そして、今まで着ていたふだん着の上に、これから着ていくよそ行きの着物を羽織ったかと思うと、するりと今までの着物が足もとへ流れる様に落ちていました。あつという間の着替えで、どうやって袖を通したのか、外からはうかがい知れませんが、当時は、たとえ家人の前でも下着姿でダンスを開けるなど、不体裁な段取りはしませんでした。今では、芝居などで見えることはできませんが、昔の人たちは立ち居振る舞いが形になっていて、子ども心にその所作は美しく印象的でした。

*文化財保護協会顧問・宮岡正一郎さん(みやおかしょういちろう)から伺った話を、広報室がまとめました。